

溶連菌感染症について

?? 普通の咽頭扁桃腺炎とはどうちがうの??

溶連菌感染症は、A群 溶血性連鎖球菌(溶連菌)と呼ばれる菌が感染することによっておこります。また、この菌はみずぼうそうやはしかと異なり、何度でも感染します。

咽頭扁桃腺炎を起こすのはほとんどがウイルスです。その他は細菌によりますが、その細菌性の原因の多くが溶連菌によるものです。ウイルスによる咽頭扁桃腺炎と溶連菌によるものの違いは、溶連菌による場合に合併症として腎炎やリウマチ熱を起こすことがあることです。しかしきちんと抗生物質で治療すれば怖い病気ではありません。

【感染】 接触感染です。外出先からの帰宅後は手洗いとうがいをきちんとしましょう。

【症状】 急にかなり強い咽頭痛、発熱(38~39)、寒気、頭痛が始まって気分が悪くなります。

普通の風邪と違って鼻水、咳などの症状が乏しいです

喉の奥が真っ赤にはれて、扁桃腺に黄白色のかすのようなもの(膿)が付着します。また口腔の天井部には点状の出血斑がみられます。

菌の出す毒素のため、全身に発疹がでて真っ赤になります。また、舌がイチゴのように赤くなることもあります。

治った後、発疹があった皮膚がぼろぼろ皮剥けすることがあります。

溶連菌感染症がやっかいなのは、いったん治ったように見えた後でも、リウマチ熱や腎炎など、自己免疫反応による合併症を引き起こすことです。

【診断】 のどから溶連菌を検出します。のどの壁を綿棒でこすって菌を調べます。その日のうちに結果が分かる簡易迅速検査があります。

【いつから登校していいの?】 登校は症状と合わせて、主治医と相談しましょう。

大人でも何度でもかかる病気ですので、家族にもうつります。きょうだいや親御さんに同じような症状が出てきたときは、すぐ受診してのどの検査を受けてください。